関西・四国版

瀬崎林業に近畿農政局長賞

輸出に取り組む優良業者表彰

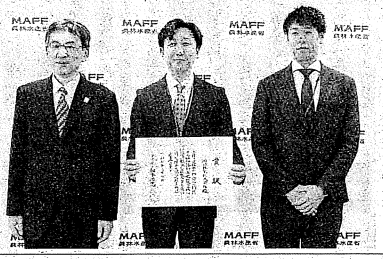
近畿農政局

近畿農政局（京都市、相本浩志近畿農政局長）は6日、「令和6年度近畿農政局輸出に取り組む優良事業者表彰」の表彰式を同農政局で行った。木材関係では瀬崎林業（大阪市、遠野嘉之社長）が近畿農政局長賞を受賞した。

農林水産省は、農林水産物・食品の輸出促進を図るため、輸出に取り組む優良事業者表彰を実施している。その一環として、同局は同局管内の輸出に取り組む事業者の優れた取り組みを表彰し、広く紹介している。

瀬崎林業は2010年に他社に先駆けて国産材原木の輸出を開始し、国産材の外需拡大に向けて事業を展開した。国内の地域とのつながりを構築して輸出先からコミュニティーを活発化させ、輸出先から求められるニーズを把握してきた。輸出額は21年32億5716万円、22年26億8833万円、23年28億3231万円になる。

表彰式では相本局長が遠野社長に賞状を手渡した。意見交換が行われ、遠野社長は「人口や住宅着工戸数が減少するなか、戦後に植林された杉や桧が伐採適期を迎え、世界的な木材需要の高まりと相まって輸出が伸びている。国産材の用途の広さや品質の良さも世界で認知されてきた。木は伐って、使って、植えて、育てて、という森林の循環が大切。山を健全にすることを一番の軸に捉えて、林産業の継続に向けてこれからの輸出に取り組みたい」と話した。



相本局長（左）と賞状を持つ遠野社長（中央）

農林水産物・食品の輸出状況は、23年8月のALPS処理水放出によって、中国や香港向けが水産物輸入規制を受けている。このため、24年（1～12月）の農林水産物・食品の輸出額は大きく減少した。しかし、品目別では水産物以外の木材や緑茶、牛肉などが大きく伸びた。また、国・地域別では米国、台湾、韓国向けなどの輸出上位国が大きく伸び、多くの国・地域が前年比プラスとなった。これによって、農林水産物・食品の24年（同）輸出額は1兆5073億円（前年比3・7%増）。そのうち林産物は667億円（同7・4%増）となった。なお、25年1月も単月で農林水産物・食品の輸出額は954億円（同10・4%増）と順調だ。